

(別添1)

| | |
|-------|------------------|
| No. | |
| 策定年月 | 令和3年5月 |
| 見直し年月 | 令和3年7月 令和4年5月 |

麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：三重県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

三重県は、全耕地面積(R3年度:57,600ha)に対して主食用米の作付割合が約5割(R3年度:25,900ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、水田面積を維持し、安定した水田農業経営を実現するには、新規需要米や新市場開拓用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む中で、団地化の推進や排水対策等の技術導入、機械導入により、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく必要がある。

また、三重県産麦は主に県内実需に販売されており、民間流通地方連絡協議会や麦作振興対策会議等を通して実需、関係機関、行政が連携し需要に応じた生産拡大に取り組んできた。これまでは供給が需要に追いついておらず、生産拡大を主に取り組んできたが、近年の増収により需要量に均衡する生産量に達した。そこで、今後は実需との連携をさらに密とし、需要の拡大や需要に応じた品種への切り替え等を実需の理解を得ながら進める。

現在、三重県においては、水田フル活用ビジョン、三重の水田農業戦略により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

(2) 県で推進する団地の基準等

三重県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。ただし、過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法、特定農山村法に指定されている地区については、中山間に位置するため、農地の集約に制限があることから、2ha以上の場合を団地とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本県の「あやひかり」、「ニシノカオリ」を中心に、全量(R3年産麦:23,300トン)が加工用として、県内の製粉会社に販売されており、近年増収傾向となっているものの年次間差が課題となっていることから、実需からは「安定した品質と生産量」が求められている。また一方で、供給量が需要量を上回る品種もあることから、これら品種については、需要拡大に向けた取組を進めるとともに、適性生産量を維持した上で、需要に応じた品種への切り替えを図っていく必要がある。

・大豆については、生産のほぼ全量を占める「フクユタカ」は、県内を中心に主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内に約3割、県外実需へ約7割販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。また、長雨による播種遅れの対応策として、早生型品種の導入による作期分散を検討する必要がある。なお、実需から雑草種子・異物の混入に対する改善も求められており、粗選機や色彩選別機による選別作業を推進し、選別精度の向上対策を進める必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移している。

・麦については増収傾向となっているものの、収量のほ場間差および年次間差が課題となっており、作付け面積が横ばいの中で、実需からの要望を満たすには、低収ほ場の解消等の安定した収量確保に取り組む必要がある。また、低アミノ麦等の品質面でも課題があることから、品質の向上にも取り組む必要がある。これらの原因として、排水不良や降雨による収穫遅れ等の要因が考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。

・大豆については長期的に収量が低下傾向となっており、生産性の向上に取り組む必要がある。この原因としては、排水不良や長雨による作業の遅れが単収低下の大きな要因と考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられ、収量を向上させるため、地力の回復を図るとともに、施肥や土壌改良資材の施用による収量向上技術の確立が課題となっている。

・さらには、近年担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしている。スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要であるが、さらなる団地化の推進が課題となっている。

(3)実績

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------|-------------|-----------|-----------|---------------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 3,964 | 4,381 | 4,476 | 308 | 364 | 359 | 12,190 | 15,929 | 16,062 |
| | ニシノカオリ | 1,080 | 871 | 992 | 241 | 289 | 272 | 2,603 | 2,516 | 2,701 |
| | さとのそら | 545 | 360 | 350 | 258 | 374 | 353 | 1,406 | 1,347 | 1,234 |
| | タマイズミ | 482 | 479 | 477 | 204 | 241 | 192 | 981 | 1,153 | 914 |
| 大麦 | ファイバースノウ | 309 | 307 | 290 | 256 | 334 | 372 | 790 | 1,024 | 1,079 |
| 作物計 | | (0) 6,380 | (0) 6,398 | (0) 6,585 | (0) 282 | (0) 343 | (0) 334 | (0) 17970 | (0) 21969 | (0) 21990 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------|-------------|-----------|-----------|---------------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 4,381 | 4,476 | 4,696 | 364 | 359 | 307 | 15,929 | 16,062 | 14,436 |
| | ニシノカオリ | 871 | 992 | 1,042 | 289 | 272 | 285 | 2,516 | 2,701 | 2,969 |
| | さとのそら | 360 | 350 | 350 | 374 | 353 | 296 | 1,347 | 1,234 | 1,035 |
| | タマイズミ | 479 | 477 | 464 | 241 | 192 | 183 | 1,153 | 914 | 851 |
| 大麦 | ファイバースノウ | 307 | 290 | 120 | 334 | 372 | 275 | 1,024 | 1,079 | 330 |
| 作物計 | | (0) 6,398 | (0) 6,585 | (0) 6,672 | (0) 343 | (0) 334 | (0) 294 | (0) 21969 | (0) 21990 | (0) 19621 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-----------|-----------|---------------|--------|-----------|----------|----------|-----------|
| | | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 4,181 | 4,137 | 4,064 | 87 | 35 | 75 | 3,629 | 1,458 | 3,045 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | (0) 4,181 | (0) 4,137 | (0) 4,064 | (0) 87 | (0) 35 | (0) 75 | (0) 3629 | (0) 1458 | (0) 3045 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-----------|-----------|---------------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 4,137 | 4,064 | 4,110 | 35 | 75 | 66 | 1,458 | 3,045 | 2,698 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | (0) 4,137 | (0) 4,064 | (0) 4,110 | (0) 35 | (0) 75 | (0) 66 | (0) 1,458 | (0) 3,045 | (0) 2,698 |

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1) 取組方針

① 需要に応じた生産と販売の実現

麦については、県内の実需から特に増産要望の強い、「さとのそら」、「ニシノカオリ」を中心に、5年で380トンの増産を図る。「タマイズミ」「ファイバースノウ」については、使用用途の拡大などの需要拡大に向けた取組を進めるとともに、需要に応じた品種への転換に向けた実需との検討を進める。麦の増産を進めるには産地での保管体制や物流体制を調整する必要があるため、関係機関が連携し、体制強化に向けた取組を進める。

大豆については、5年で2,235トンの増産を図るとともに、長雨や台風等のリスクを緩和するために、「フクユタカ」に加え、作期分散を目的とした「サチユタカA1号」等「フクユタカ」よりも早生の品種導入に向けた検討を進める。

三重県産麦・大豆は民間流通地方連絡協議会や麦作振興会議、大豆振興会議を通して、産地・実需者・行政機関がより連携し、需要に応じた生産拡大を進める。

② 団地化の推進

人・農地プランや水田フル活用ビジョン、農業振興地域整備計画、農業経営基盤強化促進基本構想などによる農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮し、産地を中心に団地化に向けた取組を進める。

③ 土づくり

土壌に起因する低収要因の改善に向けて、麦・大豆の低収が課題となっているほ場の土壌診断と、その結果に基づく施肥等の土づくりに向けた取組を実施する。

④ 排水改良

排水の改善に向けては、小明渠畝立播種やチゼル深耕、心土破碎等の営農排水対策技術の普及による排水改善を推進する。また、農業経営基盤強化促進基本構想による、計画的な暗渠排水の設置・更新、区画整理を進めるとともに、農業競争力強化農地整備事業（農地整備事業、農地中間管理機構関連農地整備事業、水利施設等保全高度化事業）等を活用し、簡易な排水対策を進める。

⑤ 新たな需要の拡大

県内食品事業者、小売店への地場産活用の働き掛け等の消費拡大の取組を実施する他、食品事業者と連携した新たな商品開発など、新たな需要拡大に向けた取組を産地・実需者・行政機関が連携して行う。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

| | | | | | | | | |
|----|-------|-----------|--------|-----------|-----------|---------|-----------|--|
| 大豆 | フクユタカ | 4,110 | 66 | 2,698 | 4,400 | 120 | 5,280 | |
| | | | | | | | | |
| | 作物計 | (0) 4,110 | (0) 66 | (0) 2,698 | (0) 4,400 | (0) 120 | (0) 5,280 | |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

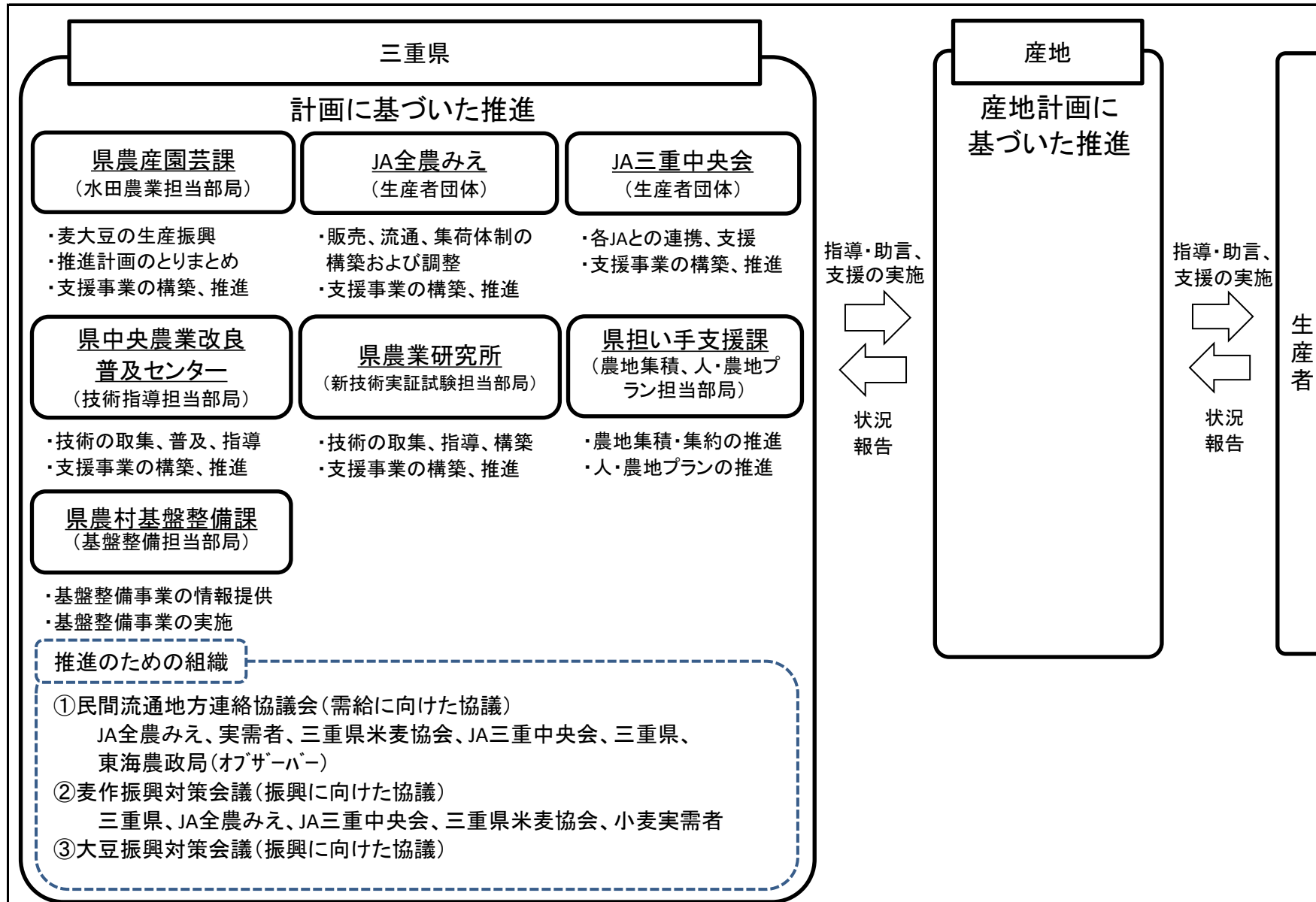
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産（麦においては播種）する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

| | 連携する計画・プラン等名称 | 作成年 | 備考 |
|---|---------------|-----|----|
| 1 | 水田収益力強化ビジョン | 令和3 | |
| 2 | 三重の水田農業戦略2020 | 令和2 | |
| 3 | 三重県農業農村整備計画 | 令和2 | |
| 具体的連携内容 本計画の実施に当たっては、県の上記計画との整合を図るとともに、本計画の内容を、毎年作成する地域の水田収益力強化ビジョンに反映させることとする。 特に、団地化の推進にあたっては、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が、効果的に活用されるよう団地化を推進する。 具体的には、麦・大豆増産に取り組む地域は、人・農地プランにおいても、作成時・見直し時に麦・大豆の増産に係る内容を盛り込み、作物の団地化も考慮しプランを作成することとする。 | | | |

6. 活用予定の事業

| 関連 | 事業名 | 備考 |
|----|-----------------|---|
| ○ | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 | 当該事業により、団地化の推進や、需要に応じた生産に向けた生産性向上の取組を実施する。(令和3~4年度) |
| | | |
| | | |
| | | |

※県段階で想定している事業名について、記載すること。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

| No | 作成主体名 | 関係市町村 | 活用予定の事業 |
|----|---------------|-------|-----------------|
| 1 | 東員町地域農業再生協議会 | 東員町 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 2 | 四日市市農業再生協議会 | 四日市市 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 3 | 伊賀市農業再生協議会 | 伊賀市 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 4 | いなべ市地域農業再生協議会 | いなべ市 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 5 | 菰野町農業再生協議会 | 菰野町 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 6 | 松阪市農業再生協議会 | 松阪市 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| 7 | 多気町地域農業再生協議会 | 多気町 | 水田麦・大豆産地生産性向上事業 |
| | | | |

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付すること。

(別添 2)

| | |
|-------|--------|
| No. | 1 |
| 策定年月 | 令和3年4月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 東員町産地 (作成主体:東員町地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

東員町は、全耕地面積(令和2年:575ha)に対して主食米の作付割合が約6割(令和2年:332ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大と併せて、麦の生産を拡大する必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、今後、より一層の担い手への集積が進む状況を踏まえ、コンバイン・溝堀機などを導入し、効率的作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要に応じた品種への切り替え等を実需の理解を得ながら早急に進め、単収の安定を実現する。

大豆の生産性向上にあたっては、種子更新、堆肥施用、除草剤散布など基本的な栽培技術の徹底や、葉面散布剤や肥効調整型肥料の使用などによる生育量の確保と登熟向上により安定した高収量・高品質の生産を図る。

現在、東員町においては、水田収益力強化ビジョンや三重の水田戦略により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種であるあやひかり(小麦)は、県内の製粉企業に販売されているが、県全体で実需からの要望量と均衡しており、継続した安定生産と品質向上が求められている。

ファイバースノウ(大麦)は、県内の製茶企業へと販売されており、近年は単収の増加により供給量が需要量を上回っているものの、依然として一定の需要量がある。

しかし、近年の実需の要望量との均衡は天候に恵まれたことが理由と考えられる増収であるため、増収が継続していくか不透明であることから、引き続き安定した生産・供給と品質の向上を図る必要がある。さらに、需要を満たしている大麦については小麦への転換を検討する必要がある。

・大豆については、生産の大半を占める「フクユタカ」は、県内を中心に主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内および県外実需へと販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・小麦の作付面積は横ばいで推移しているが、単収は増加傾向となっている。大麦の作付面積は減少傾向にあるが、単収は増加傾向となっている。近年は、降水量が少なく、平均気温も安定しているため、全体として単収が増加している。

今後も引き続き安定した生産は必要である。さらに、近年は、担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしかねない。

そのため、適期作業や収量向上を目的とした、さらなる団地化の推進や機械・施設の導入・更新が必要となっている。

・大豆については長期的に収量が低下傾向となっており、面積の減少にもつながっていることから、生産性の向上に取り組む必要がある。この原因としては、基本的技術の徹底不足や排水不良や長雨による作業の遅れが単収低下の大きな要因と考えられている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられている。このため、まずは防除や施肥、土壌改良資材の施用など基本的技術の徹底による単収向上が喫緊の課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|------|----------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 120 | 124 | 134 | 290 | 358 | 363 | 348 | 444 | 486 |
| 大麦 | ファイバースノウ | 79 | 76 | 61 | 228 | 301 | 362 | 180 | 229 | 221 |
| はだか麦 | | 0 | 3 | 8 | 0 | 383 | 250 | 0 | 11 | 20 |
| 作物計 | | 199 | 203 | 203 | 265 | 337 | 358 | 528 | 684 | 727 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|--------|-------------|--------|-----------|---------------|--------|-----------|--------|--------|-----------|
| | | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 145 | 137 | 111 | 81 | 32 | 40 | 117 | 44 | 44 |
| | ナナホマレ | 0 | 7 | 9 | 0 | 30 | 27 | 0 | 2 | 2 |
| | ナカセンナリ | 0 | 0 | 25 | 0 | 0 | 24 | 0 | 0 | 6 |
| 作物計 | | 145 | 144 | 145 | 81 | 32 | 36 | 117 | 46 | 53 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|----------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----------------------------|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | あやひかり | | | | | 106 | 79.1% | ※作業時期が異なる等により、品種ごとに団地化を進める |
| 大麦 | ファイバースノウ | | | | | 21 | 34.4% | |
| | はだか麦 | | | | | 8 | 100.0% | |
| 作物計 | | | | | | 135 | 66.5% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成29年産 | | 平成30年産 | | 令和元年産(現状) | | 備考 |
|-----|--------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ | | | | | 87 | 78.4% | |
| | ナナホマレ | | | | | 3 | 33.3% | |
| | ナカセンナリ | | | | | 0 | 0.0% | |
| 作物計 | | | | | | 90 | 62.1% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県の「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とされており、同一の基準を用いて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

| | |
|-------|------------------|
| No. | 2 |
| 策定年月 | 令和3年4月 |
| 見直し年月 | 令和3年7月 令和4年4月 |

麦・大豆産地生産性向上計画 四日市市産地

＜麦：下海老町、赤水町、中野町、桜町、江村町、智積町、生桑町、平尾町＞

＜大豆：下海老町、赤水町、中野町、桜町、江村町、智積町、平尾町、上海老町、黒田町、北野町＞

（作成主体：四日市市農業再生協議会）

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

四日市市は、全水田面積（令和3年：2,597ha）に対して、主食米の作付割合が58%（令和3年：1,513ha）を占める地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中、水田を維持して、安定した水田農業経営を実現するためには、新規需要米、新市場開拓用米やハクサイ・キャベツ・トマト等の園芸作物と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産について、まずは実需者ニーズに的確に応えられるよう、基本技術の徹底及び各地域の条件に適した生産技術の普及を図る。また、その生産拡大に対しては、担い手農家への集積が進む中、省力化機械の導入等によって、生産性の高い栽培体系の構築を推進して対応していく。

現在、四日市市においては、水田フル活用ビジョン及び三重の水田農業戦略2020等に基づいて、水稻・麦・大豆による2年3作を基本とする作付体系を推進しており、本計画によって更なる生産性の向上及び品質の確保を図り、水田農業の持続的な発展を目指すものとする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦は、本地域内で生産されている「あやひかり」の全量が加工用として、県内の製粉会社に販売されている。近年、排水対策の励行や収穫時の天候に恵まれたことから増収傾向となっているが、依然として全国平均に比べると低単収であることから、実需者からは「安定した生産量と品質の確保」が求められている。今後も安定した需要が十分に見込まれることから、作付拡大及び単収向上対策を推進するとともに、実需者から信頼を得るべく品質向上対策も併せて講じる必要がある。

・大豆は「フクユタカ」が栽培されており、その全量が豆腐・納豆用として県外実需者を中心に県内実需者にも販売されている。梅雨・台風等の自然災害の影響により、低単収でかつ作柄が不安定なため十分な安定供給が難しい状況にある。そのため、第一義的に排水対策や適期播種の徹底について十分に促進し、将来にわたって安定した需要に資するよう粗選機や色彩選別機を導入した選別作業を推進する必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・麦及び大豆の作付面積については、主食用米の転作としてブロックローテーションによる作付地が多いため毎年変動はあるが、概ね横ばいで推移している。

・麦は、長年にわたり低単収であることが大きな課題となっている。その主な原因は排水対策が不十分であることが考えられるため、土壌の透水性や地下水位の高さを考慮した排水対策の実施が課題となっている。また、気象等の影響によって低アミロ麦が発生し、大きく品質低下を招く年次があることから、四日市鈴鹿地域農業改良普及センターやJAみえきた等関係機関による栽培だよりの情報提供等によって適期収穫を促進して、品質低下防止に努める必要がある。

・大豆は、麦以上に低単収問題が深刻であり、全国平均と比べると著しく低い数値になっている。この主な原因は、排水不良や長雨による作業の遅れと考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。また、水田のフル活用に伴う地力低下も一因と考えられるため、地力の回復を図るべく施肥や土壌改良資材の施用が必要である。

・近年は、担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大していることから、各作業の適期実施の逸失を防止するため、農地の団地化だけでなくスマート農業の導入を推進して、作業効率を上げることが課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|---------|-----------|---------------|--------|-----------|----------|----------|-----------|
| | | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | (54.82) | (61.60) | (59.76) | 233.00 | 255.00 | 311.00 | (127.73) | (157.08) | (185.85) |
| | | 115.10 | 123.17 | 129.99 | | | | 268.18 | 314.08 | 404.26 |
| 作物計 | | (54.82) | (61.60) | (59.76) | 233.00 | 255.00 | 311.00 | (127.73) | (157.08) | (185.85) |
| | | 115.10 | 123.17 | 129.99 | | | | 268.18 | 314.08 | 404.26 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|----------|-----------|---------------|--------|-----------|---------|---------|-----------|
| | | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) | 平成29年産 | 平成30年産 | 令和元年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | (82.97) | (102.70) | (90.41) | 117.00 | 52.00 | 87.00 | (97.07) | (53.40) | (78.65) |
| | | 149.52 | 160.60 | 155.58 | | | | 174.94 | 83.51 | 135.35 |
| 作物計 | | (82.97) | (102.70) | (90.41) | 117.00 | 52.00 | 87.00 | (97.07) | (53.40) | (78.65) |
| | | 149.52 | 160.60 | 155.58 | | | | 174.94 | 83.51 | 135.35 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 平成29年産 | | 平成30年産 | | 令和元年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | あやひかり | 43.86 | (80.0%) | 46.20 | (75.0%) | 47.92 | (80.2%) | |
| | | | 38.1% | | 37.5% | | 36.9% | |
| 作物計 | | 43.86 | (80.0%) | 46.20 | (75.0%) | 47.92 | (80.2%) | |
| | | | 38.1% | | 37.5% | | 36.9% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成29年産 | | 平成30年産 | | 令和元年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ | 58.08 | (70.0%) | 66.76 | (65.0%) | 61.02 | (67.5%) | |
| | | | 38.8% | | 41.6% | | 39.2% | |
| 作物計 | | 58.08 | (70.0%) | 66.76 | (65.0%) | 61.02 | (67.5%) | |
| | | | 38.8% | | 41.6% | | 39.2% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県の基準と同様に、「団地」は基本的に4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添 2)

| | |
|-------|--------|
| No. | 3 |
| 策定年月 | 令和3年4月 |
| 見直し年月 | 令和4年4月 |

麦・大豆産地生産性向上計画 伊賀市 (作成主体:伊賀市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

伊賀市は、全耕地面積(令和元年:7,350ha)に対して主食米の作付割合が約5割(令和元年:3,909ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、従来使用機種と比較して作業効率が向上するコンバインの導入や排水対策等増産技術の向上のためのリバーシブルプラウの導入など効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、優良品種への切り替えを実需の理解を得ながら進める。

現在、伊賀市においては、水田フル活用ビジョン(水田収益力強化ビジョン)などにより水田活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦について、小麦はJA等を経由して県内製粉業者へ販売、大麦は麦茶用や精麦用としてJA等を通じて県内精麦業者へ販売。本地域で生産している品種「タマイズミ」は実需からの要望が減少していることから、適性生産量を維持した上で、需要が拡大基調である「ニシノカオリ」等への切り替えを産地として検討していく必要がある。県産大麦の安定した需要に応えるため、生産量を維持していく。

・大豆については、生産のほぼ全量を占める「フクユタカ」は、県内を中心に主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内および県外実需へと販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。また、長雨による播種遅れの対応策として、早生型品種の導入による作期分散の導入を検討する必要がある。なお、実需から雑草種子・異物の混入に対する改善も求められており、粗選機や色彩選別機による選別作業を推進し、選別精度の向上対策を進める必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・近年、作付面積は麦については横ばい傾向で推移している。

・麦については増収傾向となっているものの、収量のほ場間差および年次間差が課題となっており、作付け面積が横ばいの中で、実需からの要望を満たすには、低収ほ場の解消等の安定した収量確保に取り組む必要がある。また、低アミロ麦等の品質面でも課題があることから、品質の向上にも取り組む必要がある。これらの原因として、排水不良や降雨による収穫遅れ等の要因が考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。

・大豆については長期的に収量低下傾向となっており、生産性の向上に取り組む必要がある。単収低下の大きな要因は、排水不良や長雨による作業の遅れにあると考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられ、収量を向上させるため、地力の回復を図るとともに、施肥や土壌改良資材の施用による収量向上技術の確立が課題となっている。

・さらには、近年担い手への農地の集積が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしている。スマート農業技術の導入や作付圃場の団地化等の推進が必要であり、課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 小麦 | タマイズミ | 481.6 | 489.3 | 482.3 | 225.1 | 250.4 | 218.3 | 1,084 | 1,225 | 1,053 |
| | | | | | | | | | | |
| 大麦 | ファイバースノウ | 11.1 | 13.5 | 6.6 | 261.2 | 407.4 | 363.6 | 29 | 55 | 24 |
| 作物計 | | 492.7 | 502.8 | 488.9 | 225.9 | 254.6 | 220.3 | 1,113 | 1,280 | 1,077 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 358.6 | 321.5 | 297.7 | 33.4 | 55.4 | 76.0 | 119.8 | 178.1 | 226.2 |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | 358.6 | 321.5 | 297.7 | 33.4 | 55.4 | 76.0 | 119.8 | 178.1 | 226.2 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|----------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|---|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | タマイズミ | | | | | 17.2 | 3.6% | 集落営農組織単位での集積実績は確認しているが団地化要件を満たした面的集積については未確認のため |
| | | | | | | | | |
| 大麦 | ファイバースノウ | | | | | 0 | 0.0% | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 17.2 | 3.5% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|-----|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|---|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | | | | | | | | 集落営農組織単位での集積実績は確認しているが団地化要件を満たした面的集積については未確認のため |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地化率は三重県における団地の基準等(「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地)に準じる

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添 2)

| | |
|-------|--------|
| No. | 4 |
| 策定年月 | 令和4年4月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 いなべ市産地 (作成主体:いなべ市地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

いなべ市は、全耕地面積(令和3年:2,096ha)に対して主食米の作付割合が約6割(令和3年:1,185ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大と併せて、麦の生産を拡大する必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、今後、より一層の担い手への集積が進む状況を踏まえ、コンバイン・溝堀機などを導入し、効率的作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要に応じた品種への切り替え等を実需の理解を得ながら早急に進め、単収の安定を実現する。

大豆の生産性向上にあたっては、種子更新、堆肥施用、除草剤散布など基本的な栽培技術の徹底や、葉面散布剤や肥効調整型肥料の使用などによる生育量の確保と登熟向上により安定した高収量・高品質の生産を図る。

現在、いなべ市においては、水田収益力強化ビジョンや三重の水田戦略により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦大豆の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種であるあやひかり(小麦)は、県内の製粉企業に販売されているが、県全体で実需からの要望量と均衡しており、継続した安定生産と品質向上が求められている。ファイバースノウ(大麦)は、県内の製茶企業へと販売されており、近年は単収の増加により供給量が需要量を上回っているものの、依然として一定の需要量がある。

しかし、近年の実需の要望量との均衡は天候に恵まれたことが理由と考えられる増収であるため、増収が継続していくか不透明であることから、引き続き安定した生産・供給と品質の向上を図る必要がある。さらに、需要を満たしている大麦については小麦への転換を検討する必要がある。

・大豆については、生産の大半を占める「フクユタカ」は、主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内および県外実需へと販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・小麦の作付面積は増加傾向にあるが、単収は減少傾向となっている。大麦の作付面積は減少傾向にあるが、単収は増加傾向となっている。近年は、降水量が少なく、平均気温も安定しているため、全体として単収が増加している。

今後も引き続き安定した生産は必要である。さらに、近年は、担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしかねない。

そのため、適期作業や収量向上を目的とした、さらなる団地化の推進や機械・施設の導入・更新が必要となっている。

・大豆については長期的に収量が低下傾向となっており、面積の減少にもつながっていることから、生産性の向上に取り組む必要がある。この原因としては、基本的技術の徹底不足や排水不良や長雨による作業の遅れが単収低下の大きな要因と考えられている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられている。このため、まずは防除や施肥、土壌改良資材の施用など基本的技術の徹底による単収向上が喫緊の課題となっている。

・農業者の高齢化等による離農により、近年担い手への農地の集積が急速に進んでいることから、スマート農業の推進や作業の効率化を図るため、団地化率を向上させる必要があるが、団地化率は伸び悩んでおり、改善が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------|-------------|------|----------|---------------|------|----------|--------|------|----------|
| | | R1年産 | R2年産 | R3年産(現状) | R1年産 | R2年産 | R3年産(現状) | R1年産 | R2年産 | R3年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 17 | 34 | 41 | 394 | 379 | 345 | 66 | 127 | 141 |
| | | | | | | | | | | |
| 大麦 | ファイバースノウ | 20 | 16 | 7 | 377 | 483 | 179 | 75 | 76 | 13 |
| 作物計 | | 37 | 50 | 48 | 385 | 412 | 319 | 141 | 203 | 154 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|------|----------|---------------|------|----------|--------|------|----------|
| | | H30年産 | R1年産 | R2年産(現状) | H30年産 | R1年産 | R2年産(現状) | H30年産 | R1年産 | R2年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 39 | 50 | 58 | 48 | 70 | 77 | 19 | 35 | 45 |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | 39 | 50 | 58 | 48 | 70 | 77 | 19 | 35 | 45 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | R1年産 | | R2年産 | | R3年産(現状) | | 備考 |
|-----|----------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | あやひかり | | | | | 5 | 11.2% | |
| | | | | | | | | |
| 大麦 | ファイバースノウ | | | | | 6 | 80.8% | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 11 | 22.9% | |

| 作物名 | 品種名 | H30年産 | | R1年産 | | R2年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ | | | | | 20 | 34.5% | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 20 | 34.5% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県の「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とされており、同一の基準を用いて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

| | |
|-------|--------|
| No. | 5 |
| 策定年月 | 令和4年4月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 菰野産地 (作成主体:菰野町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

菰野町は、全水田面積(令和3年:1,446ha)に対して、主食米の作付割合が約6割(令和3年:833ha)を占める地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中、水田を維持して、安定した水田農業経営を実現するためには、新規需要米、新市場開拓用米やハクサイ・キャベツ・トマト等の園芸作物と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産について、まずは実需者ニーズに的確に応えられるよう、基本技術の徹底及び各地域の条件に適した生産技術の普及を図る。また、その生産拡大に対しては、担い手農家への集積が進む中、省力化機械の導入等によって、生産性の高い栽培体系の構築を推進して対応していく。

現在、菰野町においては、水田フル活用ビジョン及び三重の水田農業戦略2020等に基づいて、水稻・麦・大豆による2年3作を基本とする作付体系を推進しており、本計画によって更なる生産性の向上及び品質の確保を図り、水田農業の持続的な発展を目指すものとする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦は、本地域内で生産されている「あやひかり」の大部分をJAみえきたに出荷し、JA全農みえ、三重県製粉組合を通じて県内製粉会社に出荷され主に麵用の小麦粉として流通している。近年、排水対策の励行や収穫時の天候に恵まれたことから増収傾向となっているが、依然として全国平均に比べると低単収であることから、実需者からは「安定した生産量と品質の確保」が求められている。今後も安定した需要が十分に見込まれることから、作付拡大及び単収向上対策を推進するとともに、実需者から信頼を得るべく品質向上対策も併せて講じる必要がある。

・大豆は「フクユタカ、すずおとめ」が栽培されており、大部分をJAみえきたに出荷し、JA全農みえを通じて主に県外実需者に契約販売されている。梅雨・台風等の自然災害に加え獣害被害の影響により、低単収でかつ作柄が不安定なため十分な安定供給が難しい状況にある。そのため、第一義的に排水対策や適期播種の徹底について十分に促進し、将来にわたって安定した需要に資するような取組みを推進する必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・麦及び大豆の作付面積については、主食用米の転作としてブロックローテーションによる作付地が多いため毎年変動はあるが、概ね横ばいで推移している。

・麦は、長年にわたり低単収であることが大きな課題となっている。その主な原因は排水対策が不十分であることが考えられるため、土壌の透水性や地下水位の高さを考慮した排水対策の実施が課題となっている。また、気象等の影響によって低アミロ麦が発生し、大きく品質低下を招く年次があることから、国、県、JAみえきた等の関係機関による営農技術の情報提供等を活用し、排水対策の徹底、適期播種、適期収穫を促進して、品質低下防止に努める必要がある。

・大豆は、麦以上に低単収問題が深刻であり、全国平均と比べると著しく低い数値になっている。この主な原因は、排水不良や長雨による作業の遅れと考えられ、徹底した排水対策の実施が課題となっている。また、水田のフル活用に伴う地力低下も一因と考えられるため、地力の回復を図るべく施肥や土壌改良資材の施用が必要である。

・近年は、担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大していることから、各作業の適期実施の逸失を防止するため、農地の団地化だけでなくスマート農業の導入を推進して、作業効率を上げることが課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 504 | 524 | 518 | 312 | 316 | 298 | 1,572 | 1,655 | 1,543 |
| 作物計 | | | | | | | | | | |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ/すずおとめ | 488 | 497 | 495 | 64 | 78 | 87 | 312 | 387 | 430 |
| 作物計 | | | | | | | | | | |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 令和元年産 | | 令和2年産 | | 令和3年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | あやひかり | | | | | 11.6 | 2.2% | |
| 作物計 | | | | | | | | |

| 作物名 | 品種名 | 令和元年産 | | 令和2年産 | | 令和3年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ/すずおとめ | | | | | 11.6 | 2.3% | |
| 作物計 | | | | | | | | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県の基準と同様に、「団地」は基本的に4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添2)

| | |
|-------|--------|
| No. | 6 |
| 策定年月 | 令和4年4月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 松阪市産地 (作成主体:松阪市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、耕地面積約7,510ha(令和2年度)の約8割にあたる約6,160haを水田が占めており、立地特性からみると山間部から沿岸部まで農地が広がり、地域農業の現状も多様である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大と併せて、麦の生産を拡大する必要がある。

今後、より一層の担い手への集積が進む状況を踏まえ、コンバイン・シーダーなどを導入し、効率的作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。

大豆の生産性向上にあたっては、種子更新、堆肥施用、除草剤散布など基本的な栽培技術の徹底や、葉面散布剤や肥効調整型肥料の使用などによる生育量の確保と登熟向上により安定した高収量・高品質の生産を図る。

現在、松阪市においては、水田収益力強化ビジョンや三重の水田戦略により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種であるあやひかり(小麦)は、県内の製粉企業に販売されているが、県全体で実需からの要望量と均衡しており、継続した安定生産と品質向上が求められている。しかし、近年の実需の要望量との均衡は天候に恵まれたことが理由と考えられる増収であるため、増収が継続していくか不透明であることから、引き続き安定した生産・供給と品質の向上を図る必要がある。また、大麦(ファイバースノウ)に関しては、需要と供給が安定した状況であるため、現状を維持していく。

・大豆については、生産の大半を占める「フクユタカ」は、県内を中心に主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内および県外実需へと販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・小麦の作付面積は拡大傾向であり、単収はやや減少傾向になっている。近年は、主食用米からの転換が進み、作付面積が拡大している。三重県内では、麦の需要量と生産量が均衡しており、今後も引き続き安定した生産は必要である。さらに、近年は、担い手への農地の集積が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、品質低下や単収低下の傾向がある。そのため、適期作業や収量向上を目的とした、さらなる団地化の推進や機械・施設の導入・更新が必要となっている。

・ブロックローテーションになり団地化を図れている集落は複数あるが、複数の農業者が混在しているため、集約に至っていない。これらの現状を踏まえ、農地の集約化による効率的な作業、規模に応じた機械導入が必要である。

・大豆については長期的に収量が低下傾向となっており、面積は横ばいとなっていることから、生産性の向上に取り組む必要がある。単収低下の大きな要因としては、基本的技術の徹底不足や排水不良や長雨による作業の遅れが考えられている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられている。このため、まずは防除や施肥、土壌改良資材の施用など基本的技術の徹底による単収向上が喫緊の課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 小麦 | あやひかり | 1,536 | 1,656 | 1708 | 364 | 352 | 332 | 5,591 | 5,829 | 5,671 |
| 大麦 | ファイバースノウ | 41 | 40 | 40 | 350 | 368 | 297 | 144 | 147 | 119 |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | 1,577 | 1,696 | 1,748 | 364 | 352 | 331 | 5,735 | 5,976 | 5,789 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 1,359 | 1,337 | 1,343 | 38 | 69 | 59 | 516 | 923 | 792 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | | | | | | | | | |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 令和元年産 | | 令和2年産 | | 令和3年産(現状) | | 備考 |
|-----|----------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | あやひかり | | | | | 24.9 | 1.46% | |
| 大麦 | ファイバースノウ | | | | | 0 | 0.0% | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | | | | | 24.9 | 1.42% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ | | | | | 21.0 | 1.56% | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | | | | | 21.0 | 1.56% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県の「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とされており、同一の基準を用いて団地化率を算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

(別添 2)

| | |
|-------|--------|
| No. | 7 |
| 策定年月 | 令和4年4月 |
| 見直し年月 | |

麦・大豆産地生産性向上計画 多気町産地 (作成主体: 多気町地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

多気町は、全耕地面積(令和2年:1,152ha)に対して主食米の作付割合が約54%(令和2年:619ha)を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大と併せて、麦の生産を拡大する必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、今後、より一層の担い手への集積が進む状況を踏まえ、コンバインを導入し、効率的作業を可能とする生産性の高い麦の産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要に応じた品種の品質向上、単収の安定を実現する。

大豆の生産性向上にあたっては、種子更新、堆肥施用、除草剤散布など基本的な栽培技術の徹底や、葉面散布剤や肥効調整型肥料の使用などによる生育量の確保と登熟向上により安定した高収量・高品質の生産を図る。

現在、多気町においては、水田収益力強化ビジョンや三重の水田戦略により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種であるニシノカオリ(小麦)は、県内の製粉企業に販売されているが、県全体で実需からの要望量と均衡しており、継続した安定生産と品質向上が求められている。しかし、近年の実需の要望量との均衡は天候に恵まれたことが理由と考えられる増収であるため、増収が継続していくか不透明であることから、引き続き安定した生産・供給と品質の向上を図る必要がある。

・大豆については、生産の大半を占める「フクユタカ」は、県内を中心に主に豆腐や味噌・醤油、納豆用として、県内および県外実需へと販売されているが、作柄が不安定であり、安定供給が達成できていない。実需からの要望を生産量が満たしていないため、増産を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・小麦の作付面積、単収とも横ばい傾向で推移しており、今後も引き続き安定した生産が必要である。また、近年は、担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、品質低下や単収低下を引き起こしかねない。そのため、適期作業や収量向上を目的とした、さらなる団地化の推進や機械・施設の導入・更新が必要となっている。

・大豆については、単収が低い傾向となっており、生産性の向上に取り組む必要がある。単収低下の大きな要因としては、基本的技術の徹底不足や排水不良や長雨による作業の遅れが考えられている。また、転作率の増大に伴う地力低下も要因と考えられている。このため、まずは防除や施肥、土壌改良資材の施用など基本的技術の徹底による単収向上が喫緊の課題となっている。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|--------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) | 令和元年産 | 令和2年産 | 令和3年産(現状) |
| 小麦 | ニシノカオリ | 204 | 219 | 218 | 297 | 244 | 278 | 608 | 535 | 606 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | 204 | 219 | 218 | 297 | 244 | 278 | 608 | 535 | 606 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|--------|-------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 大豆 | フクユタカ | 170 | 165 | 191 | 27 | 67 | 42 | 46 | 111 | 80 |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | 170 | 165 | 191 | 27 | 67 | 42 | 46 | 111 | 80 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 令和元年産 | | 令和2年産 | | 令和3年産(現状) | | 備考 |
|-----|--------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | ニシノカオリ | | | | | 30.2 | 13.9% | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | | | | | 30.2 | 13.9% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | フクユタカ | | | | | 32.4 | 17.0% | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | | | | | 32.4 | 17.0% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

三重県においては作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とされており、多気町においても同一の基準を用いて団地化を算出するが、多気町勢和地域に限っては、過疎地域自立促進特別措置法(準過疎地域)に指定されており中山間に位置し、農地の集約に制限があることから2ha以上の場合は団地とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。